

Veritas™ Enterprise Administrator ユーザーズガイド

5.0 Maintenance Pack 3



VEA ユーザーズガイド

このマニュアルで説明するソフトウェアは、使用許諾契約に基づいて提供され、その内容に同意する場合にのみ使用することができます。

Product version:5.0 MP3

Document version:5.0MP3.0

法定通知

Copyright © 2008 Symantec Corporation. All rights reserved.

Symantec、Symantec ロゴは、Symantec Corporation または同社の米国およびその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

このシマンテック製品には、サードパーティ(「サードパーティプログラム」)の所有物であることを示す必要があるサードパーティソフトウェアが含まれている場合があります。一部のサードパーティプログラムは、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで利用できます。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースのフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務は変更されないものとします。サードパーティプログラムについて詳しくは、この文書のサードパーティの商標登録の付属資料、またはこのシマンテック製品に含まれる **TRIP ReadMe File** を参照してください。

本書に記載する製品は、使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバース・エンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されています。Symantec Corporationからの書面による許可なく本書を複製することはできません。

Symantec Corporationが提供する技術文書はSymantec Corporationの著作物であり、Symantec Corporationが保有するものです。保証の免責:技術文書は現状有姿で提供され、Symantec Corporationはその正確性や使用について何ら保証いたしません。技術文書またはこれに記載される情報はお客様の責任にてご使用ください。本書には、技術的な誤りやその他不正確な点を含んでいる可能性があります。Symantecは事前の通知なく本書を変更する権利を留保します。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212の規定によって商業用コンピュータソフトウェアとみなされ、場合に応じて、FAR 52.227-19「Commercial Computer Licensed Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202「Rights in Commercial Computer Licensed Software or Commercial Computer Licensed Software Documentation」、その後継規制の規定により制限された権利の対象となります。

Symantec Corporation
20330 Stevens Creek Blvd.
Cupertino, CA 95014

<http://www.symantec.com>

テクニカルサポート

ご購入先にお問い合わせください。

| | |
|--|----|
| テクニカルサポート | 4 |
| 第 1 章 Veritas Enterprise Administrator コンソールの 紹介 | 9 |
| Veritas Enterprise Administrator コンソールについて | 9 |
| VEA の機能 | 10 |
| Veritas Enterprise Administrator ホームページ | 11 |
| メインウィンドウ | 12 |
| クイックアクセスバー | 13 |
| オブジェクトツリーとグリッド | 13 |
| メニューバー | 14 |
| ツールバー | 15 |
| ステータス領域 | 15 |
| 複数選択 | 16 |
| タスクへのアクセス | 16 |
| タスクのスロットル | 16 |
| 終了したタスクのクリア | 16 |
| タスク属性の表示 | 16 |
| 新しいウィンドウを開く | 17 |
| 第 2 章 Veritas Enterprise Administrator の使用 | 19 |
| Veritas Enterprise Administrator について | 20 |
| システムの設定 | 20 |
| Veritas Enterprise Administrator の起動 | 20 |
| Windows クライアントから | 21 |
| UNIX クライアントから | 21 |
| 起動プロファイル | 22 |
| Veritas Enterprise Administrator の設定 | 23 |
| 接続設定 | 24 |
| 全般設定 | 25 |
| 拡張設定 | 25 |
| 言語設定 | 26 |
| コンソールビューの設定 | 26 |
| ユーザーアカウントの設定 | 27 |
| オブジェクトとオブジェクト属性の表示 | 27 |

| | |
|--|----|
| オブジェクトの選択 | 28 |
| ナビゲーションビュー | 29 |
| 詳細ビュー | 29 |
| コンソールビュー | 30 |
| タスクビュー | 30 |
| オブジェクトのプロパティ | 30 |
| タスクの実行 | 31 |
| メニューバーからのタスクの実行 | 31 |
| ポップアップメニューからのタスクの実行 | 31 |
| タスクアシスタントからのタスクの実行 | 31 |
| ホストとドメインの接続と切断 | 32 |
| ホストまたはドメインへの接続 | 32 |
| ログオン認証 | 33 |
| ホストからの切断 | 34 |
| 接続ホストの切り替え表示 | 34 |
| Veritas Enterprise Administrator クライアントの終了 | 34 |
| 別の製品の表示 | 35 |
| コントロールパネル (Control Panel) の使用 | 35 |
| アラートログの表示 | 36 |
| 前のアラートセット (Previous set of Alerts) と次のアラートセット (Next set of Alerts) | 36 |
| アラートの詳細の表示 | 37 |
| タスクログの表示 | 37 |
| 前のタスクセット (Previous set of Tasks) と次のタスクセット (Next set of Tasks) | 38 |
| タスクの詳細 | 38 |
| ログの設定 | 38 |
| ビューの印刷 | 38 |
| ユーザープロファイルの管理 | 39 |
| 起動プロファイルの選択 | 40 |
| 新しいプロファイルの作成 | 40 |
| パスワードの変更 | 41 |
| プロファイルの削除 | 41 |
| ファイアウォールのサポート | 41 |
| 例 1 | 42 |
| 例 2 | 42 |
| 例 3 | 43 |
| 第 3 章 アクセシビリティ | 45 |
| アクセシビリティについて | 45 |
| キーボードショートカット | 45 |
| アクセラレーターについて | 45 |

| | |
|--------------------|-----------|
| ニーモニックについて | 46 |
| キーボードマッピング規則 | 46 |
| ダイアログボックス | 49 |
| 用語集 | 53 |
| 索引 | 55 |

Veritas Enterprise Administrator コンソールの紹介

この章では以下の項目について説明しています。

- [Veritas Enterprise Administrator コンソールについて](#)
- [VEA の機能](#)
- [Veritas Enterprise Administrator ホームページ](#)
- [メインウィンドウ](#)
- [複数選択](#)
- [タスクへのアクセス](#)
- [新しいウィンドウを開く](#)

Veritas Enterprise Administrator コンソールについて

Veritas Enterprise Administrator (VEA) Console は、アプリケーションオブジェクトと接続性に関するデータをグラフィック形式で表示します。また、多くのツールや機能を使用するためのユーザーインターフェースを提供します。

VEA GUIを使用する前に、次の内容をよくご確認ください。

- [「VEA の機能」](#)
- [「Veritas Enterprise Administrator ホームページ」](#)
- [「メインウィンドウ」](#)

VEA の機能

VEAを使用すると、ローカルコンピュータまたはリモートコンピュータ上のディスク、ボリューム、ファイルシステムを管理できます。

VEA は、サーバーとクライアントにより構成されます。サーバーは、VxVM などの監視対象のアプリケーションが実行されているコンピュータで動作します。クライアントは、Java Runtime Environment をサポートする Windows、HP、Linux、Solaris、AIX コンピュータで動作します。

VEA では次の機能が提供されます。

- アクセシビリティ - マウスとキーボードの使用
マウスの代わりに、アクセラレータやニーモニックを使用できます (詳しくは VEA オンラインヘルプを参照してください)。
- 操作性
メニューまたはタスクリストを使用してタスクにアクセスする、タスクベースのユーザーインターフェースが用意されています。管理者は、システムの操作や設定を簡単に行うことができ、システム上のすべてのオブジェクトを参照したり、特定のオブジェクトに関する詳細情報を表示することができます。
- リモート管理
管理者は、リモートまたはローカルで管理を行うことができます。VEA クライアントは、UNIX、Linux、Windows コンピュータで動作します。
- Java ベースのインターフェース
Java ベースのインターフェースを使用します。管理者は、VEA を Java アプリケーションとして実行できます。
- 拡張性
- VEA は、多数のディスクを含むシステムを処理できます。管理者は、システム上のすべてのオブジェクトを表示することも、特定のオブジェクトまたはオブジェクトセットのみを表示することもできます。
- セキュリティ
ファイアウォールを介したクライアントとサーバー間の通信については、VEA のオンラインヘルプを参照してください。
- 複数のホストに対する VEA アクセスのサポート
VEA クライアントでは、複数のホストコンピュータへの同時アクセスが可能です。管理者は、1 回のクライアントセッションで複数のホストに接続し、各ホストのオブジェクトを表示して、各ホストの管理タスクを実行できます。ただし、それぞれのホストコンピュータで VEA サーバーを実行しておく必要があります。
- 複数のオブジェクトの表示方法
VEA では、オブジェクトの表示方法が複数提供されます。

- メインウィンドウのツリーとグリッドには、システムのオブジェクトが一覧表示されます。

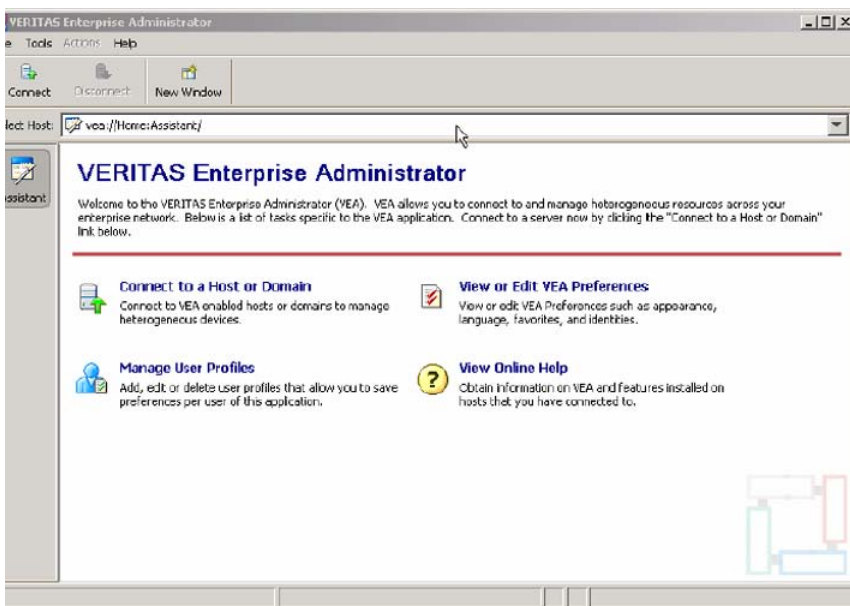
その他のビューはアプリケーションによって異なります。たとえば、VxVM を実行している場合は、次のビューが表示されます。

- [ディスクの表示 (Disk View)] ウィンドウには、ディスクグループ内のボリューム、ディスク、その他のオブジェクトがグラフィック表示されます。
- [ボリュームの表示 (Volume View)] ウィンドウには、ホスト上のボリュームがグラフィック表示されます。
- [ボリュームとディスクのマッピング (Volume to Disk Mapping)] ウィンドウには、ボリュームとその基盤になっているディスクとの関係が表示されます。

Veritas Enterprise Administrator ホームページ

図 1-1 に示す VEA ホームページは、VEA の起動時に最初に表示される画面です。

図 1-1 VEA ホームページとアシスタント



ツールバーには、次のアイコンが表示されます。

- [接続 (Connect)] - VEA 対応ホストへの接続を確立します。
- [切断 (Disconnect)] - ホストから切断します。

- [新規ウィンドウ (New Window)]- 新しいウィンドウを開きます。
[アシスタント (Assistant)]を使用すると、最も重要なタスクを実行できます。
- [ホストまたはドメインへの接続 (Connect to a Host or Domain)]
p.32 の「[ホストとドメインの接続と切断](#)」を参照してください。
- [VEA ユーザー設定の表示または編集 (View or Edit VEA Preferences)]
p.23 の「[Veritas Enterprise Administrator の設定](#)」を参照してください。
- [ユーザープロファイルの管理 (Manage User Profiles)]
p.39 の「[ユーザープロファイルの管理](#)」を参照してください。
- [オンラインヘルプを表示 (View Online Help)]

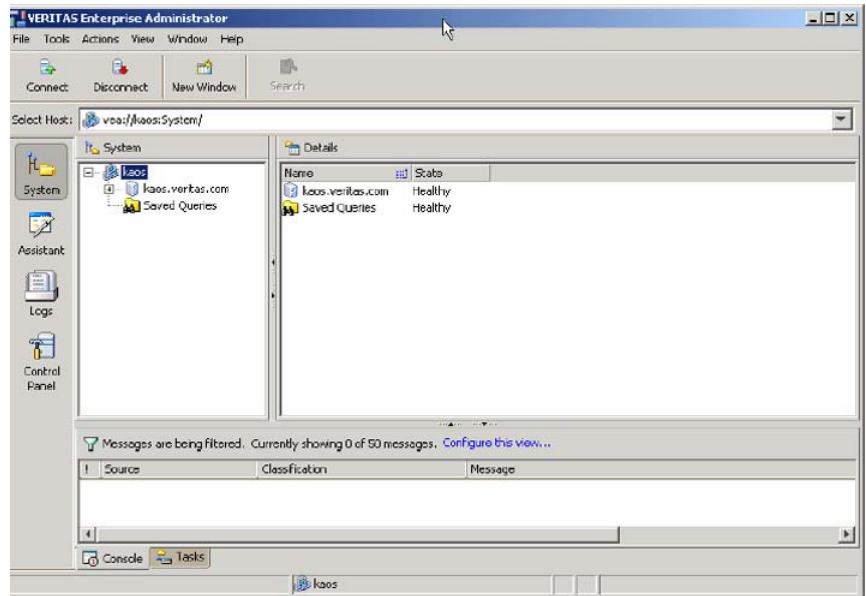
メインウィンドウ

ホストに接続すると、VEA メインウィンドウが表示されます。メインウィンドウの構成は次のとおりです。

- 「[クイックアクセスバー](#)」
- 「[オブジェクトツリーとグリッド](#)」
- 「[メニューバー](#)」
- 「[ツールバー](#)」
- 「[ステータス領域](#)」

図 1-2 は VEA のメインウィンドウです。

図 1-2 メインウィンドウ



ツールバーは、メインウィンドウから切り離したり再結合することができます。これをドッキングと呼びます。グリッドは、別のウィンドウに表示することもできます。

クイックアクセスバー

クイックアクセスバーでは、次のアイコンを使用して各機能に直接アクセスすることができます。

- システム (System)
- アシスタント (Assistant)
- ログ (Logs)
- コントロールパネル (Control Panel)

オブジェクトツリーとグリッド

VEA のメインウィンドウは、2 つのペインに分割されています。

- 左ペイン (オブジェクトツリー)
- 右ペイン (グリッド)

オブジェクトツリー (object tree)

通常オブジェクトツリーでは、現在の VEA クライアントセッションに接続しているホストコンピュータがノードとして表示されます。

グリッド

右ペインには、オブジェクトとその属性を表形式で表示するグリッドが含まれます。グリッドに表示されるオブジェクトは、オブジェクトツリー (左ペイン) で現在選択されているグループアイコンに属するオブジェクトです。

分割バーは、オブジェクトツリーとグリッドを分割する垂直バーです。マウスボタンを分割バーの上で押し、そのまま左または右にドラッグすると、左右のペインのサイズを変更することができます。

メニューバー

ウィンドウ上部にあるメニューバーには次のメニューが含まれています。

- **ファイル (File)**
ファイル (File) メニューからは、新規ホストへの接続の確立、現在のホストセッションの切断、オブジェクトの [プロパティ (Properties)] ウィンドウへのアクセス、ページ設定処理、印刷と印刷プレビュー機能、VEA の終了を実行できます。
- **ツール (Tools)**
ツール (Tools) メニューを使用すると、次の操作を実行できます。
 - [ユーザー設定 (Preferences)] ダイアログの設定
 - ユーザープロファイルの管理
 - VEA エラーコンソールの管理
- **アクション (Actions)**
アクション (Actions) メニューは、選択したオブジェクトのタスクを起動するコンテキスト依存メニューです。このメニューは、ホストに接続するまでアクティブになりません。

メモ: DCLI 操作を実行した場合、その変更を GUI に反映するには、アクション (Actions) メニューから [再スキャン (Rescan)] を実行する必要があります。

- **ビュー (View)**
ビュー (View) メニューでは、VEA コンソールで表示するビューを選択できます。
 - [接続 (Connection)] を選択すると、接続されたホストを切り替え表示できます。
 - [パースペクティブ (Perspective)] を選択すると、[システム (System)] や [アシスタント (Assistant)] などの表示モードを選択できます。

- [ホーム(Home)]を選択すると、ホームページに戻ります。
- ウィンドウ(Window)
ウィンドウ(Window)メニューからは、[別ウィンドウで表示(Tear off)]機能を実行できます。この機能を使用すると、VEA クライアントで現在表示されているビューを新しいウィンドウにコピーできます。これにより、複数の異なるオブジェクトタイプの詳細を同時に表示したり、それらの相互関係を示すことができます。
次に、新しいウィンドウで表示するビューをドロップダウンメニューから選択します。
- ヘルプ
ヘルプ(Help)メニューでは、VEA のオンラインヘルプにアクセスすることができます。

ツールバー

ツールバーを使用すると、プログラムの最も一般的なタスクに簡単にアクセスして実行できます。

ツールバーハンドルは、ツールバーの横にある細いバーです。ツールバーハンドルを使用して、ツールバーをメインウィンドウから切り離したり、メインウィンドウの下部、左右または上部に移動することができます。ツールバーの位置を変更するには、ツールバーハンドルの上でマウスボタンを押したままツールバーを新しい位置にドラッグします。

メモ: UNIX クライアントの起動中は、ツールバーハンドルは不可視です。

ステータス領域

ステータス領域は、メインウィンドウの下部にあります。コンソールビューとタスクビューが含まれます。

コンソールビュー

ホスト選択時に[コンソール(Console)]をクリックすると、コンソールビューを表示できます。ここには、そのホストに対する最新のメッセージが表示されます。メッセージを選択すると、そのメッセージに関する追加情報が表示されます。

また、選択したメッセージをダブルクリックして、[コンソールメッセージの詳細(Console Message Details)]ダイアログでメッセージのプロパティを表示することもできます。

バッファやフィルタの設定を変更する場合は、[このビューを設定(Configure this view)]を選択して[ユーザー設定(Preferences)]ダイアログを表示します。

タスクビュー

[タスク(Tasks)]をクリックすると、タスクビューが表示されます。ここには、現在のタスクに関する情報が表示されます。

複数選択

Shift キーと Ctrl キーをマウスの左ボタンと組み合わせて使用すると、(複数のディスクを 1 つのディスクグループに追加する必要がある場合などに) 一覧から複数のオブジェクトを選択できます。

複数のオブジェクトを範囲で選択するには、**Shift** キーを使用します。

複数のオブジェクトを個別に選択するには、**Ctrl** キーを使用します。

タスクへのアクセス

通常 VEA タスクは、オブジェクトやタスクを選択し、ダイアログボックスに入力することによって実行します。VEA では、メニューバーとコンテキスト依存のポップアップメニューからタスクにアクセスできます。

選択したタスクでは、タスクを取り消す[タスクの中止 (**Abort Task**)]、タスクを一時的に停止する[タスクの一時停止 (**Pause Task**)]、一時停止したタスクを続行する[タスクの再開 (**Resume Task**)]、タスクを制御する[タスクのスロットル (**Throttle Task**)]などのポップアップメニューオプションを使用できます。

タスクのスロットル

タスクのスロットルを使用すると、ディスクの入出力時にタスクが一定時間停止し、CPU とディスクが他のタスクを実行できるようになります。

タスクの優先度を変更するには、ポップアップメニューオプションの[タスクのスロットル (**Throttle Task**)]を選択します。単一のタスクの優先度を変更することも、[すべてのタスク (**Throttle All Tasks**)]を選択して、すべての **Volume Manager** タスクに優先度を適用することもできます。[OK]をクリックして、選択を完了します。

終了したタスクのクリア

タスクは、[タスク (**Tasks**)]コンソールに永続的に残ります。完了したタスクをウィンドウから削除するには、ポップアップメニューから[終了したタスクのクリア (**Clear All Finished Tasks**)]を選択します。

タスク属性の表示

タスク属性とタスクの実行に使用する下位コマンドを表示するには、そのタスクを選択して、ポップアップメニューから[プロパティ (**Properties**)]を選択します。

新しいウィンドウを開く

[新規ウィンドウ (New Window)] アイコンを選択すると、新しいウィンドウを開いたり、現在表示しているウィンドウを別のウィンドウで開くことができます。

また、[ファイル (File)]、[新規ウィンドウ (New Window)] から選択することもできます。

Veritas Enterprise Administrator の使用

この章では以下の項目について説明しています。

- [Veritas Enterprise Administrator](#) について
- システムの設定
- [Veritas Enterprise Administrator](#) の起動
- [Veritas Enterprise Administrator](#) の設定
- オブジェクトとオブジェクト属性の表示
- タスクの実行
- ホストとドメインの接続と切断
- [Veritas Enterprise Administrator](#) クライアントの終了
- 別の製品の表示
- コントロールパネル (Control Panel) の使用
- アラートログの表示
- タスクログの表示
- ログの設定
- ビューの印刷
- ユーザープロファイルの管理
- ファイアウォールのサポート

Veritas Enterprise Administrator について

Veritas Enterprise Administrator (VEA) を使用すると、ネットワーク上のすべてのホストにアクセスできます。また、ホストのストレージ管理を実行する前に、タスクや設定機能を使用して VEA 環境を整えることができます。

システムの設定

VEA は、サーバー (`vxsvc`) とクライアント (`vea`) により構成されます。VEA サーバーは、VxVM を起動している UNIX コンピュータにインストールして実行する必要があります。VEA クライアントは、Java Runtime Environment をサポートするすべての Windows、HP、Linux、Solaris、AIX コンピュータにインストールして実行できます。

VEA を使用する前に、次の手順を実行する必要があります。

VEA を使用する前に

- 1 管理対象のコンピュータに VxVM をインストールします。
- 2 管理対象のコンピュータに VEA サーバーとクライアントをインストールします。
- 3 `root` 以外のユーザーが VEA にアクセスする必要がある場合は、VEA を実行できるユーザーを指定できるようセキュリティを設定します。
- 4 管理対象のコンピュータ以外のコンピュータで VEA クライアントを実行する予定がある場合は、VEA クライアントをそのコンピュータにインストールします。
- 5 管理対象のコンピュータ上で VEA サーバーを起動します。
- 6 VEA クライアントを起動します。

製品と VEA のインストールと設定方法の詳細については、ご使用の製品のインストールマニュアルを参照してください。

Veritas Enterprise Administrator の起動

適切な権限を持つユーザーのみが VEA を実行できます。セキュリティとアクセス権限の詳細については、ご使用の製品のインストールマニュアルを参照してください。

VEA では、ローカルコンピュータやリモートコンピュータを管理できます。管理対象のコンピュータでは、VxVM デーモン (`vxconfigd`) と VEA サーバー (`vxsvc`) が実行されている必要があります。VEA をインストールすると、VEA サーバーは、システムの起動時に自動的に起動します。

VEA コンソールは、Windows クライアントまたは UNIX クライアントから起動できます。

Windows クライアントから

Windows クライアントでは、スタートメニューまたはコマンドラインから VEA を起動できます。

スタートメニューを使用する場合

VEA をスタートメニューから起動するには、以下を実行します。

[スタート]、[プログラム(P)]、[Veritas Enterprise Administrator]、
[Veritas Enterprise Administrator コンソール(Veritas Enterprise
Administrator Console)]の順に選択します。

コマンドラインを使用する場合

VEA は Windows コマンドラインから起動できます。

VEA をコマンドラインから起動するには

- 1 たとえば次のような、VEA クライアントがインストールされているディレクトリに移動します。?

```
Object Bus¥bin
```

- 2 この場所からバッチファイルの `vea.bat` を実行し、VEA クライアントを起動します。
VEA クライアントをコマンドラインから起動する場合は、次のオプションを使用できます。

| | |
|--------------------|--|
| <code>-v</code> | クライアントコンソールのバージョンを表示します。 |
| <code>-c</code> | 高度な設定を行うための設定ファイルを指定します。 |
| <code>-host</code> | 接続先ホストを指定します。ホストのユーザー名とパスワードがすでに保存されている場合は、保存されているユーザー名とパスワードが使用されます。保存されていない場合は、ユーザー名とパスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。 |

UNIX クライアントから

VEA は UNIX コマンドラインから起動できます。

VEA をコマンドラインから起動するには

- 1 たとえば次のような、VEA クライアントがインストールされているディレクトリに移動します。

```
/opt/VRTSob/bin
```

- 2 この場所から `vea` スクリプトを実行し、VEA クライアントを起動します。

VEA クライアントをコマンドラインから起動する場合は、次のオプションを使用できます。

| | |
|--------------------|--|
| <code>-v</code> | クライアントコンソールのバージョンを表示します。 |
| <code>-c</code> | 高度な設定を行うための設定ファイルを指定します。 |
| <code>-host</code> | 接続先ホストを指定します。ホストのユーザー名とパスワードがすでに保存されている場合は、保存されているユーザー名とパスワードが使用されます。保存されていない場合は、ユーザー名とパスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。 |

起動プロファイル

パスワードで保護されたプロファイルを開始プロファイルとして選択している場合は、VEA の起動時にパスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。

パスワードを入力し、[OK]をクリックして操作を続行するか、[プロファイルの選択 (Select Profile)]をクリックして[プロファイルの選択 (Select Profile)]ダイアログを開き、別のプロファイルを選択します

[キャンセル (Cancel)]をクリックするとアプリケーションが終了します。

別のプロファイルの選択

一覧からプロファイルを選択し、必要に応じてパスワードを入力します。

[OK]をクリックしてログインします。

[ツール (Tools)] > [プロファイルの管理 (Manage Profiles)] の順に選択して、[プロファイルの管理 (Manage Profiles)] ダイアログを開くこともできます。

p.39 の「[ユーザープロファイルの管理](#)」を参照してください。

プロファイルが存在しない場合

VEA の起動時にプロファイルが存在しない場合は、次のメッセージが表示されます。

No profiles exist on this system. A new default profile has been created. If you want to create additional profiles, you may create using the "Tools" -> "Manage Profiles..." menu item

[OK]をクリックして操作を続行します。

[ツール(Tools)]>[プロファイルの管理(Manage Profiles)]の順に選択して、[プロファイルの管理(Manage Profiles)]ダイアログを開くこともできます。

p.39の「[ユーザープロファイルの管理](#)」を参照してください。

Veritas Enterprise Administrator の設定

VEA ユーザー設定機能を使用すると、VEA の実行に関する個別のユーザー設定を行うことができます。これにより、次の選択項目が提供されます。

■ 接続(Connection)

p.24の「[接続設定](#)」を参照してください。

■ 拡張(Advanced)

p.25の「[拡張設定](#)」を参照してください。

■ 全般(General)

p.25の「[全般設定](#)」を参照してください。

■ 言語(Language)

p.26の「[言語設定](#)」を参照してください。

■ セキュリティ(Security)

p.27の「[ユーザーアカウントの設定](#)」を参照してください。

■ コンソールビュー(Console View)

p.26の「[コンソールビューの設定](#)」を参照してください。

ユーザー設定は、次のいずれかの手順で行うことができます。

■ [ツール(Tools)]>[ユーザー設定(Preferences)]の順に選択します。

または、

■ [VEA アシスタント(VEA Assistant)]機能の[VEA ユーザー設定の表示または編集(View or Edit VEA Preferences)]セクションを使用します。

[ユーザー設定(Preferences)]ウィンドウが表示されます。ユーザー設定を選択後、次の手順を実行します。

■ 変更を適用するには、[適用(Apply)]をクリックします。

■ [ユーザー設定(Preferences)]ウィンドウを開く前の元の設定内容に戻すには、[リセット(Reset)]をクリックします。

- 変更を適用して[ユーザー設定 (Preference)]ウィンドウを閉じるには、[OK]をクリックします。
- 変更を破棄して[ユーザー設定 (Preference)]ウィンドウを閉じるには、[キャンセル (Cancel)]をクリックします。

メモ: 変更を反映するには、GUI を再起動する必要があります。

接続設定

[接続 (Connection)]タブで接続設定を行います。

優先ホスト (Favorite Hosts) の追加と削除

[優先ホスト (Favorite Hosts)]では、ユーザー名またはパスワードが保存されている場合、VEA 起動時にデフォルトで接続されるホストが一覧表示されます。特定のホストのユーザー名またはパスワードが保存されていない場合には、接続時にユーザー名またはパスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。

[優先ホスト (Favorite Hosts)]にホストを追加する場合は、次の手順を実行します。

[優先ホスト (Favorite Hosts)]にホストを追加するには

- 1 任意の接続されたホストノードを右クリックします。
- 2 ポップアップメニューから[優先ホストに追加 (Add to Favorites)]を選択します。

優先ホスト (Favorite Hosts) からのホストの削除

[優先ホスト (Favorite Hosts)]からホストを削除する場合は、次の手順を実行します。

[優先ホスト (Favorite Hosts)]からホストを削除するには

- 1 [ユーザー設定 (Preferences)]ウィンドウの[優先ホスト (Favorites)]セクションで、削除するホストをハイライトします。
- 2 [削除 (Remove)]をクリックします。

ホストの再接続

デフォルトでは、ログオン時に[優先ホスト (Favorite Hosts)]にあるホストが再接続されます。つまり、[ログオン時に再接続 (Reconnect At Logon)]が[はい (Yes)]に設定されています。

[ログオン時に再接続 (Reconnect At Logon)]を[いいえ (No)]に設定すると、ホストが起動時に再接続されなくなります。

履歴設定の変更

履歴設定を変更するには、[許容接続数 (Maximum Connections)] の履歴ファイルに情報を保存するサーバー (ホスト) の数を入力します。デフォルト値は 10 です。

情報を保存できるホストの最大数は 99 です。

変更を適用するには、[適用 (Apply)] をクリックします。変更を元に戻すには、[リセット (Reset)] をクリックします。変更を適用して [ユーザー設定 (Preference)] ウィンドウを閉じるには、[OK] をクリックします。変更を破棄して [ユーザー設定 (Preference)] ウィンドウを閉じるには、[キャンセル (Cancel)] をクリックします。

全般設定

[全般 (General)] タブでは、表示プロパティと接続プロパティを設定できます。

表示プロパティの設定

[ツールバー (Toolbar)] アイコンと [パースペクティブバー (Perspective Bar)] アイコンの表示プロパティを設定できます。

アイコンのテキストプロパティは、次のいずれかに設定できます。

- テキストなし - [アイコン (Icons)] を選択します。
- 上下左右にテキストを表示 - [テキスト付きアイコン (Icons with Text)] を選択して、ドロップダウンメニューから配置を選択します。

接続プロパティの設定

[接続の新しいホストにフォーカスを切り替える (Switch focus to new host on connection)] チェックボックスを使用すると、新しいホストへ接続するときのパースペクティブの変更を有効または無効にすることができます。

拡張設定

[拡張 (Advanced)] タブでは、一時ファイルに対するアクションを設定したり、ユーザー設定を変更することができます。

終了時に一時ファイルを削除する

[終了時に一時ファイルを削除する (Delete temporary files on exit)] にチェックマークを付けると、VEA の終了時に一時ファイルをすべて削除できます。

一時ファイルをすぐに削除する場合は、[今すぐに削除 (Delete Now)] ボタンをクリックします。

デフォルト値を復元する

[デフォルトを復元 (Restore Defaults)] を選択し、アプリケーションとシステムのデフォルト値を復元します。

言語設定

言語を設定するには、[言語 (Language)] タブを選択します。次に、VEA でサポートされており、使用するコンピュータで使用可能な言語を設定します。次の言語から選択します。

- 英語 (イギリス)
- フランス語 (フランス)
- 日本語 (日本)
- 韓国語 (韓国)
- 中国語 (中国)
- 中国語 (台湾)
- 英語 (アメリカ)

コンソールビューの設定

[コンソールビュー (Console View)] タブでは、次の項目を設定できます。

- フィルタ処理されていないメッセージの最大数
- フィルタ

フィルタ処理されていないメッセージの数

[メッセージバッファ (Message Buffer)] の値により、[コンソールビュー (Console View)] バッファに保存されるフィルタ処理されていないメッセージの最大値を設定できます。デフォルトでは、バッファに保存されるフィルタ処理されていないメッセージ数は 50 に設定されています。最大値を変更するには、[制限を入力 (Enter Limit)] を使用します。

最大値に達すると、最も古いメッセージから順に破棄されます。

メッセージのフィルタ処理

[フィルタ処理を実行 (Activate Filter)] にチェックマークを付けると、[コンソールビュー (Console View)] でメッセージをフィルタ処理できます。重要度、発信元、分類など、指定された条件をすべて満たすメッセージだけが表示されます。指定できる条件は、次のとおりです。

- [重要度 (Severity)] - 次の中から 1 つまたは複数選択します。

- [重要 (Critical)] - システムのクラッシュまたは回復不能なデータ損失などの、重要度の高いイベントを示します。
- [警告 (Warning)] - 回復可能なエラーやデータの損失がないことを示します。
- [エラー (Error)] - データの機能性の損失を示します。
- [情報 (Information)] - 情報イベントを示します。
- [ソース (Source)] - メッセージのソースを提供する 1 つまたは複数のホストを定義します。ホスト名はカンマで区切る必要があります。
- [分類 (Classification)] - メッセージの種類はカンマで区切る必要があります。?

ユーザーアカウントの設定

ユーザーアカウント情報には、ユーザー ID、ドメイン、パスワードの詳細が含まれます。ユーザーアカウントは削除することも、すべての接続に使用するデフォルトアカウントに設定することもできます。

セキュリティの設定では認証ブローカーの有効性を確認できます。

オブジェクトとオブジェクト属性の表示

システムのオブジェクトは、メインウィンドウとテーブルビューに表示されます。

p.12 の「[メインウィンドウ](#)」を参照してください。

ツリーは、オブジェクトグループを階層形式で表したものです。テーブルビューでは、オブジェクトと属性の一部が表形式で表示されます。

通常 VEA クライアントでは、オブジェクトは操作対象となるエンティティを指します。たとえば、Veritas Volume Manager の場合、オブジェクトはディスクになります。それぞれの表示ビューを使い分けることで、オブジェクトを参照して、クライアントコンソールを操作できます。

主に使用するのは、次の 4 つのビューです。

- ナビゲーションビュー - 画面の左側にツリー構造で表示されます。
- 詳細ビュー - 画面の右側に表形式で表示されます。
- コンソールビュー - 画面の下部に表示されます。
- タスクビュー - 画面の下部に表示されます。

次の機能を使用すると、ツリービューとテーブルビューでオブジェクトを簡単に表示できます。

- ツリー内の特定のオブジェクトグループノードに属する階層の表示または非表示を切り替えるには:

ノードの横にあるプラス記号(+)またはマイナス記号(-)のアイコンをクリックします。

- オブジェクトツリーで一覧表示されているオブジェクトグループのオブジェクトを表示するには:
オブジェクトグループをクリックします。選択したオブジェクトグループに属するすべてのオブジェクトがテーブルビューに表示されます。
- テーブルビューに一覧表示されているオブジェクトグループのオブジェクトを表示するには:
オブジェクトグループをダブルクリックします。オブジェクトグループに属するすべてのオブジェクトがテーブルビューに表示されます。
その他のオブジェクト(子オブジェクト)が含まれていないオブジェクトをダブルクリックすると、子オブジェクトではなく、そのオブジェクトの[属性(Properties)]ウィンドウが表示されます。
- テーブルビューでオブジェクトを属性ごとにソートするには:
該当する属性の列見出しをクリックします。逆順にソートするには、列見出しをもう一度クリックします。
- グリッド列のサイズを変更するには:
列見出しの境界線にポインタを合わせてマウスボタンをクリックし、そのままドラッグして列の境界線が目的の幅になるように調整します。
- 左ペイン(ツリー)と右ペイン(テーブルビュー)のサイズを変更するには:
縦の境界線にポインタを合わせてマウスボタンをクリックし、そのままドラッグして境界線が目的の幅になるように調整します。

オブジェクトの選択

ほとんどの VEA ウィンドウでは、次の手順でテーブルビューのオブジェクトを選択できます。

- オブジェクトを1つずつ選択するには:
オブジェクトをクリックします。
- 複数のオブジェクトを選択するには:
Ctrlキーを押しながらオブジェクトを選択します。この場合は隣接していないオブジェクトも選択できます。
- 特定の範囲内の隣接しているオブジェクトを選択するには:
1つ目のオブジェクトを選択し、**Shift**キーを押しながら選択範囲の最後のオブジェクトを選択します。マウスポインタで特定の範囲をドラッグして、複数のオブジェクトを選択することもできます。

ナビゲーションビュー

ナビゲーションビューでは、ツリー構造でオブジェクトを参照して操作できます。通常、このビューには次のノードが表示されます。

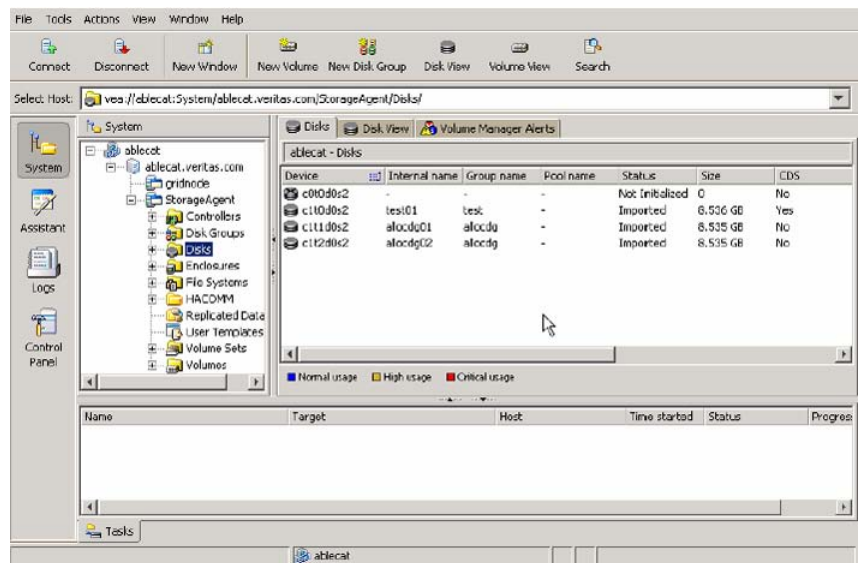
- システムノード: 接続または切断されたコンピュータシステムが、アイコンで区別されて表示されます。
- ネットワークノード: 指定されたドメインで現在稼動しているシステムが一覧表示されます。
- 履歴 (History) ノード: 最近接続されたサーバーが一覧表示されます。
- 優先ホスト (Favorite Hosts) ノード: 起動時にデフォルトで接続するホストが一覧表示されます。

システムオブジェクトは、「グループノード」というコンテナに格納されます。グループノードには、同じ種類のオブジェクトや異なる種類のオブジェクトを格納できます。ナビゲーションビューでオブジェクトを選択すると、オブジェクトに関する詳細な情報が詳細ビューに表示されます。

詳細ビュー

詳細ビュー (図 2-1) では、ナビゲーションビューでの選択に応じて、特定のグループノードに属するオブジェクトや単一のオブジェクトが表形式で表示されます。

図 2-1 詳細ビュー



コンソールビュー

コンソールビューでは、接続されたホストのアクティブなイベントとアラートが表示されます。[コンソール(Console)]をクリックすると、ユーザーセッション中にクライアントが受信したイベントが表示されます。それまでのセッションで受信したすべてのホストのイベントが表示されます。

メモ: サーバー側のイベントはサーバーで記録されます。

タスクビュー

タスクビューには、タスクの開始時刻とタスクの対象となるオブジェクト名が表示されます。タスクの履歴情報を参照するときは、タスクログを表示します。

p.37 の「[タスクログの表示](#)」を参照してください。

オブジェクトのプロパティ

それぞれのプロパティには、次の表 2-1 に示す属性があります。

表 2-1 プロパティの属性

| プロパティの種類 | 定義 |
|-------------|--|
| 種類 (Type) | プロパティの値を定義します(ブール値、さまざまなサイズの整数値、文字列など)。 |
| フラグ (Flags) | プロパティの特性([隠す (Hidden)]または[表示可能 (Displayable)]などを定義します。 |
| 名前 (Name) | プロパティの ID です。 |
| 値 (Value) | プロパティに割り当てられた値です。指定した種類により異なります。 |

「プロパティセット」とは、複数のプロパティをグループ化したものです。プロパティセットには、プロパティアレイまたは別のプロパティセットを要素として格納することもできます。1 つまたは複数のプロパティセットを含むプロパティセットは、「再帰的プロパティセット」と呼ばれます。

VEA では、オブジェクトのプロパティをテーブルビューで表示します。オブジェクトはテーブルに 1 行ずつ表示され、それぞれの行の列にプロパティが表示されます。

タスクの実行

通常 VEA タスクは、オブジェクトやタスクを選択し、ダイアログボックスに入力することによって実行します。タスクは、次の方法で実行できます。

- メニューバー
- コンテキスト依存のポップアップメニュー
- VEA タスクアシスタント

メニューバーからのタスクの実行

ホストへの接続が完了したら、メインウィンドウのメニューバーにあるアクション (Actions) メニューからタスクを起動できます。コンテキスト依存のアクション (Actions) メニューを使用すると、選択したオブジェクトでタスクを起動できます。アクション (Actions) メニューは動的であり、ツリーやグリッドで選択したオブジェクトタイプによってオプションが異なります。

アクション (Actions) メニューでオブジェクトのタスクを実行するには、オブジェクトを選択して、アクション (Actions) メニューから任意のタスクを選択します。ダイアログボックスやウィザードが表示された場合は、ダイアログボックス(またはウィザード)に従います。

ポップアップメニューからのタスクの実行

ホストへの接続が完了したら、コンテキスト依存のポップアップメニューを使用して、選択したオブジェクトでタスクを起動できます。ポップアップメニューには、選択したオブジェクトに対応するタスクやオプションが表示されます。ポップアップメニューは、メインウィンドウやその他のウィンドウで使用できます。

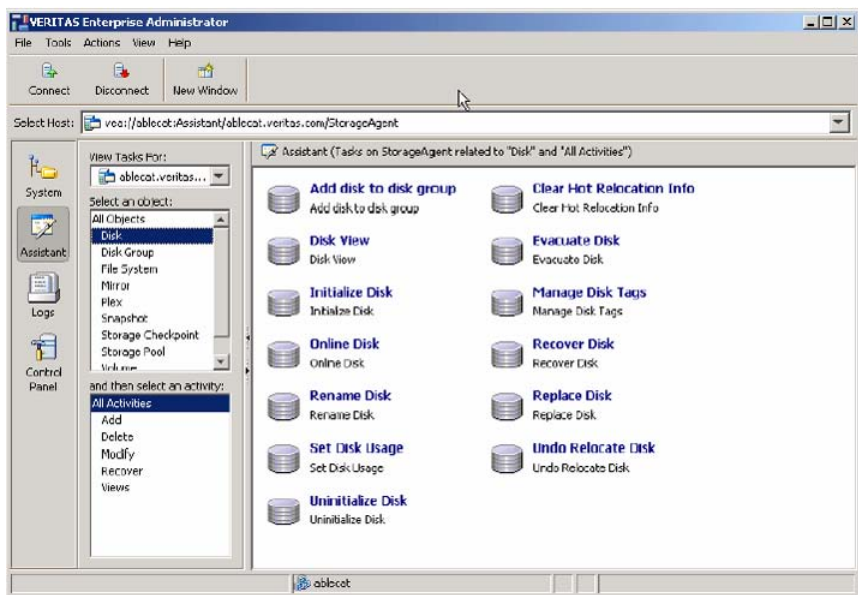
ポップアップメニューでオブジェクトのタスクを実行するには

- ◆ オブジェクトを右クリックして、ポップアップメニューから任意のタスクを選択します。ダイアログボックスやウィザードが表示された場合は、ダイアログボックス(またはウィザード)に従います。

タスクアシスタントからのタスクの実行

ホストへの接続が完了したら、VEA タスクアシスタントを使用して、選択したオブジェクトとアクティビティでタスクを起動できます (図 2-2 を参照)。

図 2-2 VEA タスクアシスタント



ホストとドメインの接続と切断

システムホストには、通常、複数のシマンテック製品がインストールされています。製品を使用するには、認証チャンネル経由でクライアントコンソールをシステムに接続する必要があります。

VEA は、複数のホストコンピュータに同時にアクセスして表示できます。

- 「ホストまたはドメインへの接続」
- 「ログオン認証」
- 「ホストからの切断」
- 「接続ホストの切り替え表示」

ホストまたはドメインへの接続

システムホストには、次の方法で接続できます。

- VEA アシスタントを使用します。
- [ファイル (File)]、[接続 (Connect)] の順に選択します。
- [接続 (Connect)] ツールバーアイコンをクリックします。

[接続 (Connect)] ダイアログボックスが表示されます。表示されたら、次の手順を行います。

- [参照 (Browse)] をクリックして、[優先ホスト (Favorite Host)] を選択します。
- 次のフィールドにデータを入力し、[OK] をクリックします。
Hostname -
Server ホストの名前、IP アドレス、正規ドメイン名のいずれかを、ドロップダウンリストから選択するか入力します。
- 次のいずれかを選択します。
 - [接続に使用したユーザーアカウント: (Connect Using:)]
デフォルトのユーザーアカウントが設定されている場合はそれが表示されます。
 - [別のユーザーアカウントを使用して接続 (Connect using a different user account)]

メモ: ホストのログインクレデンシャルは、Server ホストルートのクレデンシャルである root とそのパスワードに一致します。詳しくは、システム管理者にお問い合わせください。

- プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。Server の root アカウントのパスワードを入力します。パスワードをコンピュータに保存する場合は、[パスワードを記憶する (Remember Password)] ボックスを選択します。
これで、ホストに接続できます。

メモ: ユーザー名とパスワードのエントリがパスワードファイルに存在するか、管理対象のコンピュータの NIS (Network Information Name Service) テーブルに存在する必要があります。

ログオン認証

サーバーとの接続を確立する場合、3 つの認証方式があります。

- サイレントログオン (Windows プラットフォームのみ): この認証方式は、サーバーがローカルである場合、つまり VEA クライアントとサーバーが同じコンピュータで実行されている場合に使用されます。ユーザーが管理者権限でログオンしている場合、ユーザー名とパスワードは必要ありません (基本接続用のダイアログボックスが使用されません)。
- ネイティブログオン: ユーザーの認証にユーザー名とパスワードが必要です (拡張接続用のダイアログボックスが使用されます)。

- **DCOM 認証 (Windows プラットフォームのみ)**: ユーザーが管理者としてドメインにログオンしている場合、ユーザーの認証にユーザー名とパスワードは必要ありません (サーバー名を入力して[OK]をクリックすると、基本接続用のダイアログボックスが拡張されます)。ユーザーはサーバーに接続されます。この認証を使用するには、サーバーを管理者権限で起動する必要があります。ユーザーに管理者権限がない場合は、ネーティブログオン方式で接続されます。

ホストからの切断

[切断 (Disconnect)] 手順を使用すると、ホストコンピュータを現在の VEA セッションから切断できます。ホストコンピュータが切断されると、新しい接続が確立されるまで VEA でそのコンピュータを管理できません。

他の何らかの理由で接続が失われると、接続が遮断されたことを通知するメッセージが表示され、そのコンピュータのアイコンが左側のツリービューから削除されます。メッセージボックスを閉じるには、[OK]をクリックします。

切断されたホストコンピュータへのアクセスを復元するには、ホストに再接続する必要があります。

ホストから切断するには

- 1 切断するコンピュータのアイコンを右クリックします。
- 2 メニューバーのファイル (File) メニューから[切断 (Disconnect)]を選択します。
- 3 切断を確認するダイアログボックスが表示されます。リモート接続を終了するには、[はい (Yes)]をクリックします。
- 4 コンピュータのアイコンが左側のツリービューから削除されます。

接続ホストの切り替え表示

VEA コンソールでは、接続されたホストを切り替え表示できます。

- [ビュー (View)]、[接続 (Connection)]の順に選択します。
- 表示される接続されたホストのリストから、表示するホストを選択します。表示が選択したホストの情報に切り替わります。

Veritas Enterprise Administrator クライアントの終了

VEA クライアントを終了するには、[ファイル (File)]、[終了 (Exit)]の順に選択します。

ウィンドウの右上隅にあるクローズボタンをクリックしてクライアントを終了することもできます。

別の製品の表示

VEA では、異なるシステムの複数の製品に同時にアクセスできます。また、それぞれの製品を VEA クライアントの言語で表示できます(製品が VEA クライアントの言語に対応している場合)。

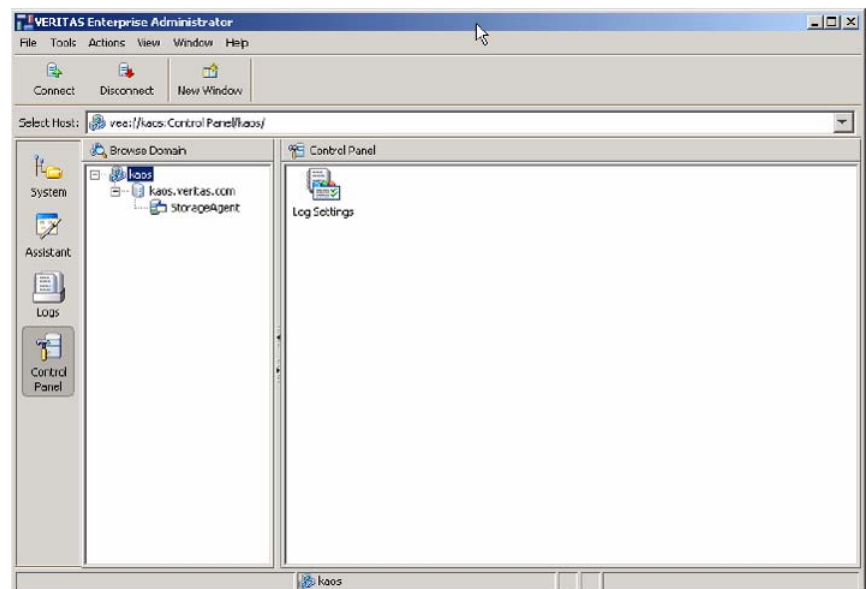
たとえば、フランス語のテキストを表示する VEA クライアントから、リモートの Solaris システムで稼動していてフランス語を表示する Veritas Volume Manager に接続すると、VEA クライアントのウィンドウにはフランス語のテキストが表示されます。また、同じ VEA クライアント(フランス語表示)から、リモートの Linux システムで稼動していて英語のテキストを表示する SAN Appliance に接続すると、その SAN Appliance がフランス語に対応している場合は、VEA クライアントではすべてがフランス語で表示されます。SAN Appliance が英語表示にしか対応していない場合、VEA クライアントでは SAN Appliance の情報が英語で表示されます。

コントロールパネル(Control Panel)の使用

アプリケーション設定を表示して変更するには、コントロールパネル(Control Panel)を使用します。[コントロールパネル(Control Panel)]を選択すると、右ペインに[コントロールパネル(Control Panel)]ビューが表示されます。

図 2-3 はコントロールパネル(Control Panel)です。

図 2-3 コントロールパネル(Control Panel)



アラートログの表示

アラートログはサーバーに保存され、サーバーに関する情報(発生したアラートなど)を記録します。

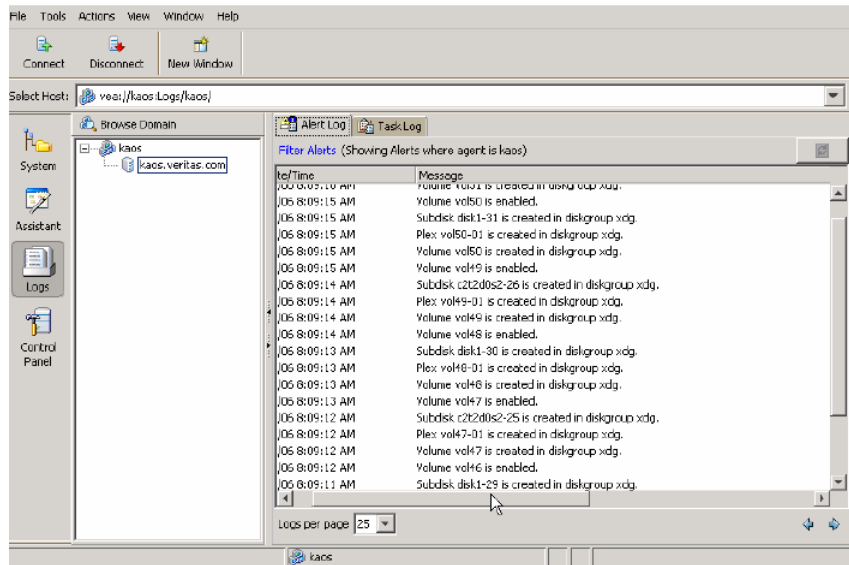
ホスト(サーバー)に接続している状態で、[ログ(Logs)]、[アラートログ(Alert Log)]タブの順にクリックすると、ログ情報のスナップショットを表示できます。

サーバーには、ポリシーに応じて1つまたは複数のアラートログが保存されます。サーバーに複数のアラートログがある場合は、表示するログファイルを選択するためのドロップダウンボックスが表示されます。

アラート情報は詳細ビューに表示されます。1セットで最大25個のアラートを表示できます。

図 2-4 はアラートログです。

図 2-4 アラートログ



前のアラートセット (Previous set of Alerts) と次のアラートセット (Next set of Alerts)

[前のアラートセット (Previous set of Alerts)] と [次のアラートセット (Next set of Alerts)] は、詳細ビューの下に表示されます。

次のアラートセットを表示するには、[次のアラートセット (Next set of Alerts)] ボタンをクリックします。現在のアラートセットが次のアラートセットに置き換えられます。イベントログに他のアラートがない場合は、現在のセットがそのまま表示されます。

前のアラートセットを表示するには、[前のアラートセット (Previous set of Alerts)] ボタンをクリックします。現在のアラートセットが前のアラートセットに置き換えられます。最初のセットに達し、前のアラートがなくなると、[前のアラートセット (Previous set of Alerts)] ボタンが無効になります。

アラートの詳細の表示

任意のアラートを選択してダブルクリックすると、アラートの詳細を表示できます。アラートの詳細は新しいウィンドウで表示されます。

図 2-5 は [Alert Log Details (アラートログの詳細)] ウィンドウです。

図 2-5 アラートの詳細



タスクログの表示

タスクログはサーバーに保存されます。イベントログと同様に機能しますが、タスクログではタスクオブジェクトに関する情報を記録します。クライアントでは、タスクログ情報のスナップショットを表示できます。

ホスト(サーバー)に接続している状態で、ツリービューの[ログ(Logs)]の下にある[タスクログ(TaskLog)]ノードを選択すると、サーバーのタスクログが表示されます。サーバーには、ポリシーに応じて1つまたは複数のタスクログが保存されます。サーバーに複数のタスクログがある場合は、表示するログファイルを選択するためのドロップダウンボックスが表示されます。

クライアントは、サーバーのログファイルから最新のタスクセットを取得し、詳細ビューに情報を表示します。1 セットで最大 25 個のタスクを表示できます。

前のタスクセット(Previous set of Tasks)と次のタスクセット(Next set of Tasks)

[前のタスクセット(Previous set of Tasks)]と[次のタスクセット(Next set of Tasks)]は、詳細ビューの下に表示されます。

次のタスクセットを表示するには、[次のタスクセット(Next set of Tasks)]ボタンをクリックします。現在のタスクセットが次のタスクセットに置き換えられます。タスクログに他のタスクがない場合は、現在のセットがそのまま表示されます。

前のタスクセットを表示するには、[前のタスクセット(Previous set of Tasks)]ボタンをクリックします。現在のタスクセットが前のタスクセットに置き換えられます。最初のセットに達し、前のタスクがなくなると、[前のタスクセット(Previous set of Tasks)]ボタンが無効になります。

タスクの詳細

特定のタスクの詳細を表示できます。タスクを選択して[詳細 (Details)]をクリックします。タスクの詳細は新しいウィンドウで表示されます。

ログの設定

サーバーのタスクログとアラートログはクライアントから設定できます。

ログを設定するには

- 1 ツリービューの[コントロールパネル (Control Panel)]ノードを選択します。詳細ビューにすべての設定アプリケーションが一覧表示されます。
- 2 [ログ設定 (Log Settings)]をダブルクリックして起動します。

最大ログサイズは 10 KB から 2 MB の範囲で設定できます。デフォルトのログサイズは 500 KB です。

ビューの印刷

右ペインのビューを印刷するには、[ファイル (File)]>[印刷 (Print)]の順に選択します。

印刷機能はサーバーに依存します。つまり、[印刷 (Print)]機能と[ページ設定 (Page Setup)]機能は、印刷をサポートするサーバーに VEA がインストールされている場合のみ表示されます。また、[印刷 (Print)]機能が使用可能な場合でも、[ページ設定 (Setup)]機能が無効な状態で表示されることがあります。

スクロールしないと画面に表示されない情報も含めて、ビュー全体が印刷されます。表示されているビューに複数のタブがある場合は、選択されているタブの情報しか印刷されません。

ユーザープロファイルの管理

VEA を同じコンピュータで実行しているユーザーは、ユーザープロファイル機能を使用することで、ユーザー設定、接続の履歴、優先情報を個別に管理できます。

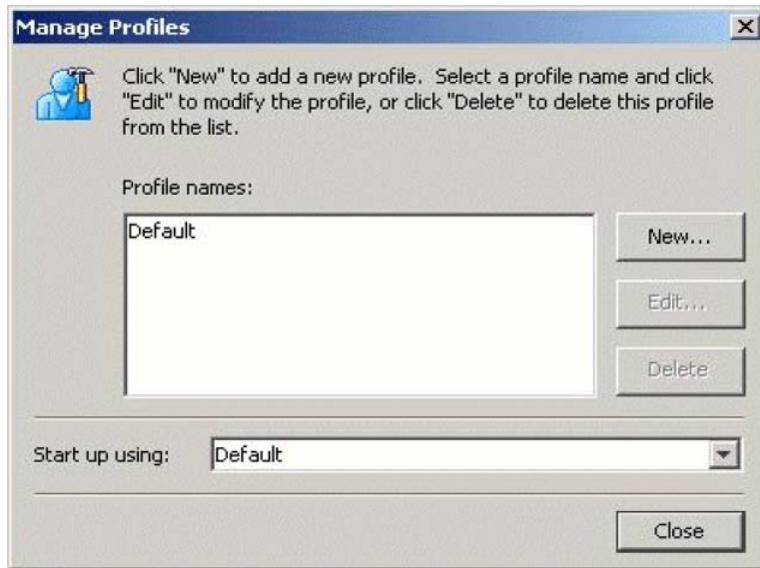
ユーザープロファイル機能を使用するには、[ツール (Tools)] > [プロファイルの管理 (Manage Profiles)] の順に選択します。[プロファイルの管理 (Manage Profiles)] ダイアログが表示されます。

[プロファイルの管理 (Manage Profiles)] ダイアログから次のアクションが実行できます。

- VEA の起動時に使用するプロファイルを設定する
p.40 の「[起動プロファイルの選択](#)」を参照してください。
- 新しいプロファイルを作成する
p.40 の「[新しいプロファイルの作成](#)」を参照してください。
- パスワードを変更する
p.41 の「[パスワードの変更](#)」を参照してください。
- プロファイルを削除する
p.41 の「[プロファイルの削除](#)」を参照してください。

図 2-6 は [プロファイルの管理 (Manage Profiles)] ウィンドウです。

図 2-6 ユーザープロファイル



起動プロファイルの選択

VEA 初回起動時に、デフォルトの起動プロファイル(デフォルト(**Default**))が自動的に作成されます。デフォルト(**Default**)プロファイルは、VEAが単一のユーザー環境で使用されている場合に有効です。この場合は、別のプロファイルを作成せずにデフォルト(**Default**)プロファイルを使用できます。

デフォルト(**Default**)プロファイルは削除または変更できません。また、パスワードによる保護も設定されません。

ユーザー専用の起動プロファイルを選択することもできます([起動時に使用:(**Startup using:**)])。また、ログオンするたびに、使用するプロファイルを確認するプロンプトを表示するように選択することもできます。

新しいプロファイルの作成

新しいプロファイルを作成するには、[新規(**New**)]ボタンを選択します。[新しいプロファイル(**New Profile**)]ダイアログが表示されます。

新しいプロファイルの名前を入力します。プロファイル名には、次の文字は使用できません。

" ~!@#\$%^&*()=+-[]{}¥¥|'¥";:.,<>/?'"

パスワードを設定するように選択することもできます。

メモ: 忘れたパスワードを再取得することはできず、また後にプロフィールを削除することもできないため、パスワードは必ず記憶するようにしてください空白のパスワードやスペースのみで構成されたパスワードはパスワードと見なされません。プロフィールはパスワード未設定としてマーク付けされます。

パスワードの変更

プロフィールのパスワードを変更するには、プロフィールを選択して[編集 (Edit)]をクリックします。[プロフィールの編集 (Edit Profile)]ダイアログが表示されます。

パスワードを変更するには、現在のパスワードを入力する必要があります。

プロフィールの削除

プロフィールを削除するには、[削除 (Delete)]をクリックします。プロフィールの削除を確認するプロンプトが表示されます。

選択したプロフィールがパスワードで保護されている場合は、パスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。

ファイアウォールのサポート

VEA では、クライアントは特定のポート番号 **2148** を使用してサーバーに接続します。ファイアウォールを介してサーバーに接続するために、ファイアウォールのポートは **VEA** サーバーの **2148** ポートにマッピングされます。

クライアントがファイアウォールを介してサーバーに接続する場合は、次の形式でホストとポートを指定する必要があります。

```
Firewallhost:port
```

ここで、

Firewallhost はファイアウォールの名前または IP アドレスです。

port は **VEA** サーバーに内部マッピングされているファイアウォールのポートです。

クライアントがサーバーに接続すると、**VEA** クライアントは接続先のホスト名 (サーバー名) を表示しますが、接続されたホストの一覧にファイアウォールポートの組み合わせは表示されません。ホスト名は[履歴 (History)]と[優先ホスト (Favorite Hosts)]にも表示されます。ファイアウォールとポートの情報は、同じサーバーに接続するときに再利用できるようにユーザープロフィール (**wallet**) に保存されます。ファイアウォールとポートの組み合わせは、[接続 (Connection)]ダイアログにのみ表示されます。

例 1

ファイアウォールマシンが a.b.c.d の場合、
a.b.c.d のポート 1234 = veaserver1 の 2148
a.b.c.d のポート 3456 = veaserver2 の 2148

...

となります。

クライアントが veaserver1 に接続する場合は、接続ボックスで次のように指定します。

```
a.b.c.d:1234
```

クライアントは veaserver1 に接続され、veaserver1 が接続されたホスト、履歴、優先ホストのデータベースに表示されます。**firewall:port** の組み合わせは、ユーザーがサーバーに接続するときに再利用できるように **wallet** に保存されます。

例 2

接続ルートが次のように設定されている場合:

```
client ---> Internet ---> firewall ---> server
```

および

```
client ---> firewall ---> server
```

次の作業を行う必要があります。

接続手順

- 1 サーバー A のポート 2148 のエイリアスをファイアウォールマシンの特定のポートに割り当てます。
- 2 サーバー A のポート 2148 のエイリアスであるファイアウォールマシン F のポートに Pf を設定します。
- 3 GUI を使用して、F の Pf に接続します。これでサーバー A を管理できます。

VEA は Anonymous Deffie Hellman キー交換を使用しているため、人を仲介した攻撃に対して脆弱性があります。このため、インターネットを介する場合は、SSH や任意のトンネリングソフトウェアを使用することをお勧めします。SSH を使用する場合は、クライアントからファイアウォールのポート Pf へのポートフォワードを設定し、SSH を使用してトンネリングを行います。

例 3

2148 がファイアウォールを介してフォワードされる場合 (ファイアウォールを通過する場合) は、次のように設定します。

接続手順

- 1 コンピュータ A とコンピュータ B は、ファイアウォールの内側 (保護されている側) にあるサーバーです。
- 2 クライアントはインターネットまたはイントラネット側にあります。

```
client ---> firewall ---> A|B
```

- 3 クライアントで、A|B に対するパケットがファイアウォール F にルーティングされるように、TCP/IP ルーティングを設定します。
- 4 名前を解析できるように、必要に応じて A と B を /etc/hosts (または対応するディレクトリ) に追加します。
- 5 管理するコンピュータに応じて、A か B、またはその両方に接続します。

アクセシビリティ

この章では以下の項目について説明しています。

- [アクセシビリティについて](#)
- [キーボードショートカット](#)
- [ダイアログボックス](#)

アクセシビリティについて

アクセシビリティは、次の機能を使用することで改善されます。

- [「キーボードショートカット」](#)
- [「ダイアログボックス」](#)

キーボードショートカット

キーボードショートカットには、「アクセラレータ」と「ニーモニック」があります。

アクセラレータについて

アクセラレータは、ショートカットを使用してGUI機能にアクセスするためのキーの組み合わせです。キーボードショートカットを使用することで、マウスの代わりにキーボードでコンピュータを操作できます。アクセラレータを使用すると、コマンドを即時に実行できます。アクセラレータは主に上級ユーザー向けの機能ですが、マウスを操作できないユーザーや複数のキーを同時に押せないユーザーにとっても有効です。アクセラレータキーは、2つ以上のキーを同時に押すのではなく、キーを1回押すことまたは2回以上続けて押すことで実行できます。マウスを使用できないユーザーや、マウス操作よりキーボード操作の方が使用しやすいユーザーに適しています。

ニーモニックについて

ニーモニックは、単一キー入力で、メニュー項目などのコンポーネントを動作させるのに使用します。1つのニーモニックは1回のマウスクリックに相当します。ニーモニックを使用してメニュー項目を選択するには、**Alt** キーを押してプルダウンメニューモードへ移行し、該当するキーを押してメニューを開き、別のキーを押してメニュー項目を選択します。次に例を示します。

- **Alt**: プルダウンメニューモードへ移行します。
- **F**: ファイル (File) メニューを開きます。
- **O**: 開く (Open) コマンドを実行します。

ニーモニックでは大文字と小文字を区別しません。キーは同時に押すのではなく、順番に押します。

キーボードマッピング規則

Microsoft キーボード規則に対する例外規則と追加規則は次のとおりです。

- 「[Microsoft キーボード規則に対する Veritas Enterprise Administrator の例外規則](#)」
- 「[Microsoft キーボード規則に対する Veritas Enterprise Administrator の追加規則](#)」
- 「[Microsoft キーボード規則に対する Veritas Enterprise Administrator のヘルプの追加規則](#)」

Microsoft キーボード規則に対する Veritas Enterprise Administrator の例外規則

表 3-1 は、VEA のニーモニックとアクセラレータの実装と Microsoft キーボード規則との違いをまとめたものです。

表 3-1 Microsoft キーボード規則に対する VEA の例外規則

| 表記規則 | ニーモニック | アクセラレータ |
|----------------|--------|------------|
| キャンセル (Cancel) | C | Alt C, Esc |
| OK | O | Alt O |
| 更新 (Refresh) | E | なし |
| はい (Yes) | なし | なし |
| いいえ (No) | なし | Esc |

| 表記規則 | ニーモニック | アクセラレータ |
|-----------|--------|---------|
| Shift+F10 | A | Alt A |

Microsoft キーボード規則に対する Veritas Enterprise Administrator の追加規則

表 3-2 は、Microsoft キーボード規則に追加する、VEA のニーモニックとアクセラレータ実装のキーボード規則をまとめたものです。

表 3-2 Microsoft キーボード規則に対する VEA の追加規則

| 表記規則 | ニーモニック | アクセラレータ |
|--|--------|--|
| アクション (Actions) | A | Alt A。選択項目に対して、Shift+F10 の代わりにこのアクセラレータを使用すると、アクション (Actions) メニューが選択された状態でコンテキストメニューが表示されません。 |
| カテゴリの追加 (Add category) | A | なし |
| 追加 (Add) | D | Alt D |
| 接続 (Connect) | C | なし |
| コンテンツ (Contents) | C | なし |
| 削除を実行 (Delete Now) | なし | なし |
| 終了時に一時ファイルを削除する (Delete Temporary files on Exit) | E | Alt E |
| 切断 (Disconnect) | D | なし |
| 履歴に格納されるアイテム数 (Number of items in history) | N | Alt N |
| パスワード (Password) | P | Alt P |

| 表記規則 | ニーモニック | アクセラレータ |
|--|--------|---------|
| 前へ (Previous) | P | Alt P |
| ログファイルを上書き (Overwrite the log file) | W | Alt W |
| 次の履歴ファイル数分のアーカイブログを残して上書き (Overwrite the log file (s) after) | A | Alt A |
| 次の経過日数内のアーカイブログを残して上書き (Overwrite the log file (s) older than) | O | Alt O |
| 削除 (Remove) | E | Alt E |
| 再スキャン (Rescan) | S | なし |
| リセット (Reset) | R | Alt R |
| デフォルトに設定 (Set to Defaults) | S | Alt S |
| パスワードを記憶する (Remember Password) | R | Alt R |
| ユーザー名 (Username) | U | Alt U |

Microsoft キーボード規則に対する Veritas Enterprise Administrator のヘルプの追加規則

表 3-3 は、Microsoft キーボード規則に追加する、VEA のニーモニックとアクセラレータ実装のキーボード規則をまとめたものです。

表 3-3 Microsoft キーボード規則に対する VEA およびアプリケーションのヘルプの追加規則

| 表記規則 | ニーモニック | アクセラレータ |
|-----------------------------|--------|----------|
| トピックより参照 (Find in Topic...) | F | Ctrl + F |

| 表記規則 | ニーモニック | アクセラレータ |
|-------------------------------------|--------|---------|
| 次を検索 (Find Next) | N | F3 |
| 前を検索 (Find Previous) | P | なし |
| ナビゲーションタブを隠す (Hide Navigation Tabs) | H | なし |
| 索引 (Index) | I | なし |
| 印刷 (Print) | P | なし |
| 検索 (Search) | S | なし |
| 同期 (Synchronize) | N | なし |

ダイアログボックス

ダイアログボックスには、通常、プログラムのオプションや設定を変更するために必要なコントロールのグループが組み込まれています。

タイトルに下線付きの文字があるコントロールは、ダイアログボックスが有効なときに **Alt +** 下線付きの文字を押すと選択または起動できます。**Tab** キーによりキーボードフォーカスをコントロール間で移動できますが、フォーカスシーケンスに含まれるコントロールとそのシーケンスの順序はアプリケーションによって異なります。通常、変更できない項目は **Tab** キーで移動できません。矢印キーは、リストボックス、オプションコントロールのグループ、ページタブのグループ内の移動に使用します。矢印キーでもキーボードフォーカスを移動できますが、この動作の信頼性は高くありません。利用できないオプションはグレー表示になり、選択不可になります。

ここで説明するコントロールは通常のダイアログボックスで表示されますが、別のコンテキストで表示される場合もあります。

[OK] ボタンなどのコマンドボタンをクリックすると、ダイアログボックスで入力した情報を使用してコマンドが実行されます。コマンドをキャンセルするコマンドボタンや、その他のオプションを選択するコマンドボタンもあります。

省略記号 (...) が付いているコマンドボタンをクリックすると、別のダイアログボックスが開き、詳細な情報の入力や動作確認を実行できます。

黒い枠は、最初はデフォルトのボタンを示します。**Enter** キーを押すと、その時点で黒い枠で囲まれているボタンが選択されます。**Tab** キーを使用してキーボードフォーカスを次のコントロールへ移動し、**Shift** キーを組み合わせるとフォーカスを逆方向へ移動します。

キーボードフォーカスをコマンドボタンに移動すると、ボタンは一時的に黒い枠で囲まれますが、キーボードフォーカスをコマンドボタンからはずすと、周囲の黒い枠がデフォルトのボタンに戻ります。スペースキーを押すと、**Tab**キーで選択したコマンドボタンが選択されます。**Esc**キーを押すと、[キャンセル (Cancel)] ボタン (表示されている場合) がすぐに選択されます。コマンドボタンのアクセスキーを押すと、そのコマンドがすぐに実行されず。

チェックボックスでは、**Tab** キーを使用してボックス間を移動し、スペースキーを使用してチェックボックスの状態を切り替えます。チェックボックスのアクセスキーを押すと、そのボックスにフォーカスが移動し、ボックスの状態が切り替わります。

オプションコントロール (ラジオボタンとも呼ばれます) は、オプショングループから 1 つのオプションのみを選択する場合に使用します。チェックボックスと同様に、オプションボタンには 2 つまたは 3 つの状態を示す場合があります。一部のアプリケーションでは、**Ctrl** キーを押すとボタンを選択することなくボタン間を移動でき、スペースキーを押すと、現在選択しているオプションボタンが選択されます。オプションコントロールのアクセスキーを押すと、そのコントロールにフォーカスが移動し、選択状態になります。

タブ付きページは、1 つのダイアログボックスで多数のオプションを示すために使用されます。タブは、視覚的にはノートの仕切りと同様に機能します。各ページには、チェックボックスやオプションコントロールなどのコントロールグループが個別に表示されます。**Tab** キーを押すと、現在表示されているページのタブにフォーカスが移動します。ページタブのアクセスキーを押してもそのタブにフォーカスが移動し、ページが表示されます。

表 3-4 は、タブ付きページでのキー操作をまとめたものです。

表 3-4 タブ付きのページ

| キー: | アクション: |
|------------------------------------|---|
| Ctrl + Page Down または Ctrl + Tab | 次のタブに切り替えてページを表示します。 |
| Ctrl + Page Up | 前のタブに切り替えてページを表示します。 |
| 下矢印または上矢印 | 次の行または前の行のタブを選択して、ページを表示します。 |
| 右矢印または左矢印 | フォーカスがタブセレクタにある場合は、現在の行にある次のタブまたは前のタブに移動して、ページを表示します。 |

スライダーは、縦または横のゲージにインジケータとして表示されます。スライダーを使用すると、速度、輝度、音量といった連続する範囲の値を表示して設定できます。**Tab** キーまたは対応するアクセスキーを押すと、そのスライダーにフォーカスが移動します。

スピンボックスは、上矢印または下矢印が付いたテキストボックスとして表示されます。固定値の一覧から任意の値を選択できます。**Tab** キーを押すと、キーボードフォーカスがテ

キストボックスに移動します。この状態でボックスに有効な値を入力するか、上矢印または下矢印キーを使用して前後の値を選択します。

リストボックスには、利用できる選択肢の列が表示されます。開いたリストボックスで表示可能な数以上の選択肢がある場合は、任意の選択肢をリストの下部へ移動するとその他の選択肢が表示されます。**Tab** キーまたは対応するアクセスキーを押すと、そのリストボックスにフォーカスが移動します。

単一選択リストボックスでは、リストから一度に **1** つの項目のみを選択できます。上矢印キーまたは下矢印キーを押して項目を選択します。2 つ目の項目に移動すると、その他の項目の選択がすべて解除されます。

ドロップダウンリストボックスには、デフォルトでは、選択された項目のみが表示されます。コントロールの右端に、小さな下矢印のボタンが表示されます。この矢印をクリックすると、その他の項目が一覧表示されます。**Alt + 下矢印キー**、**Alt + 上矢印キー**、または **F4** キーを押せば、一覧の表示と非表示の切り替えもできます。その他のすべての操作については、通常の単一選択リストボックスと同様です。

拡張選択リストボックスは、**1** つの項目、項目のブロック、または両者の組み合わせによる選択をサポートします。単一選択リストボックスの場合と同様に任意の項目を選択した後で、**Shift + ナビゲーションキー**を押すと、その他の項目を選択または選択解除できます。

複数選択リストボックスは、通常、比較的長いリストによって構成され、その他の項目は(ブロック単位ではなく)個別に選択する必要があります。項目に移動しても自動的に選択されず、項目を選択しても、その他の選択肢の状態は変化しません。項目を選択または選択解除するには、スペースキーを押します。

コンボボックスとドロップダウンコンボボックスは、編集ボックス付きのリストボックスです。編集ボックスに任意の値を入力するか、一覧から標準のコマンドを選択することで選択できます。

表 3-5 は、コンボボックスでのキー操作をまとめたものです。

表 3-5 コンボボックスとドロップダウンコンボボックス

| キー: | アクション: |
|-----------------------|--|
| 上矢印または下矢印 | 前の項目または次の項目を選択します。拡張選択リストボックスでは、 Shift キーと組み合わせた場合、その他の項目を続けて選択でき、 Ctrl キーと組み合わせた場合は、その項目を選択せずに次に移動できます。複数選択リストボックスでは、選択内容を変更せずに項目を移動します。 |
| Page Up または Page Down | 画面単位で上下に移動して項目を選択します。拡張選択リストボックスでは、 Shift キーと組み合わせた場合、その他の項目を続けて選択でき、 Ctrl キーと組み合わせた場合は、その項目を選択せずに次に移動できます。複数選択リストボックスでは、選択内容を変更せずに項目を移動します。 |

編集コントロールは、テキストの表示または編集に使用する長方形のボックスです。**Tab** キーまたは対応するアクセスキーを押すと、その編集コントロールにフォーカスが移動して、テキストが選択されます。

| | |
|--|--|
| DMP (動的マルチパス: Dynamic Multipathing) | Veritas Volume Manager の動的マルチパス機能。 |
| FastResync | スナップショットや切り離し操作によって分割された STALE 状態のミラーを、再接続時に高速で再同期する VxVM の機能。 |
| LUN (論理ユニット番号: Logical Unit Number) | アレイ内のディスクごとに LUN が 1 つずつ割り当てられます。ディスクパーティションにも LUN が割り当てられる場合があります。 |
| アラートアイコン (alert icon) | システムのオブジェクトにエラーまたは障害が発生したことを示すアイコン。アラートアイコンは通常、メインウィンドウのステータス領域と影響を受けたオブジェクトのグループアイコン上に表示されます。 |
| アラートモニター (Alert Monitor) | 障害またはエラーが発生したオブジェクトに関する情報を表示するウィンドウ。 |
| アラート (alert) | システムのオブジェクトにエラーまたは障害が発生したことを示します。オブジェクトに障害やエラーが発生すると、アラートアイコンが表示されます。 |
| グリッド (grid) | オブジェクトとその属性を表形式で表したもの。グリッドには、Veritas Volume Manager のオブジェクト、ディスク、コントローラまたはファイルシステムが一覧表示されます。グリッドに表示されるオブジェクトは、オブジェクトツリーで現在選択されているグループアイコンに属するオブジェクトです。グリッドは動的であり、オブジェクトの変更を反映して常時更新されます。 |
| グループアイコン (group icon) | 特定のオブジェクトグループを示すアイコン。 |
| コマンドログ (command log) | 現在と以前のセッションで実行された VxVM (Veritas Volume Manager) タスクの履歴が記録されるログファイル。タスクの一覧には、各タスクの実行者、開始時刻、終了時刻、タスクステータスとタスクの実行に使用された下位コマンドとともに表示されます。 |
| タスクモニター (task request monitor) | 現在の Veritas Volume Manager セッションで実行されたタスクの履歴を表示するウィンドウ。タスクの一覧には、各タスクの実行者、タスクステータス、開始時刻、終了時刻が表示されます。 |
| ツリー (tree) | システム上のオブジェクトを動的階層形式で表したもの。ツリーの各ノードは、同じタイプのオブジェクトのグループを表します。 |
| ディスクグループ (disk group) | VxVM の制御下にあり、共通の設定を共有する一連のディスク。ディスクグループ設定は、既存の Veritas Volume Manager オブジェクト (ディスクやボリューム属性など) やその関係に関する詳細情報を含むレコードのセットです。各ディスクグループには、管理者 |

が割り当てた名前が付いています。ボリュームはディスクグループに属するディスク上のみ作成できます。

| | |
|---|---|
| デバイス検出層 (Device Discovery Layer) | 「DDL」を参照。 |
| ポップアップメニュー (popup menu) | 特定のオブジェクトや領域をクリックした場合にのみ表示される、コンテキスト依存メニュー。 |
| 未初期化ディスク (uninitialized disks) | VxVM の制御下でないディスク。 |
| メインウィンドウ (main window) | VERITAS Volume Manager のメインとなるウィンドウ。このウィンドウには、ボリューム、ディスク、システムの他のオブジェクトを表示するツリーとグリッドが含まれます。メインウィンドウには、メニューバー、ツールバー、オプションの Command Launcher も表示されます。 |
| メニューバー (menu bar) | 現在のウィンドウのメニューセットを表示するバー。メニューバーは通常、ウィンドウ上部に水平に配置されます。 |
| メニュー (menu) | オプションやタスクの一覧。メニュー項目を選択するには、項目をポイントし、クリックします。 |
| ユーザーテンプレート (user templates) | ユーザーテンプレートは、タスクを簡便化するためにユーザーによって定義されるケイパビリティ、テンプレート、ルールで構成されます。ボリュームに割り当てるケイパビリティをグループ化して、これらのケイパビリティをルールとともにユーザーテンプレートとして保存できます。 |
| ルール (rules) | ルールは、ストレージの割り当て基準を指定します。これらのルールによって、ストレージ選択とストレージのレイアウトが定義されます。ルールは、ISP 言語で記述される簡単な文です。 |
| [オブジェクト表示]ウィンドウ (Object View Window) | 特定のディスクグループにある、ボリューム、ディスク、その他のオブジェクトをグラフィック表示するウィンドウ。このウィンドウに表示されたオブジェクトは、オブジェクト属性が変更されると自動的に更新されます。このウィンドウでは、ボリュームやディスクに関する詳細情報や基本情報を表示できます。 |
| [ボリュームとディスクのマッピング]ウィンドウ (Volume to Disk Mapping Window) | ボリュームとその基盤となるディスクを表形式で表示するウィンドウ。このウィンドウには、各ディスクのサブディスクやギャップなどの詳細も表示できます。 |
| [ボリュームレイアウトの詳細]ウィンドウ (Volume Layout Details Window) | ボリュームとそのコンポーネントをグラフィック表示するウィンドウ。このウィンドウに表示されるオブジェクトは、ボリューム属性が変更されても自動的に更新されません。 |

D

DCOM 認証 34

P

PropertySet 30

V

VEA

アクセシビリティ 45
起動 20

VEA コンソール 9

説明 9

VEA タスクアシスタント 31

VEA の起動 20

あ

アクション (Actions) メニュー 14

アクセシビリティ 45

アクセラレータ 45

アラート

アイコン 15

アラートログ 36

ウィンドウ

サイズ変更 14

メインウィンドウ (main window) 12

ウィンドウ (Window) メニュー 14~15

オブジェクト

選択 28

ソート 28

表示 27

オブジェクト属性 30

オブジェクトツリー (object tree) 13

オブジェクトの選択 16、28

オブジェクトのソート 28

オブジェクトの表示

オブジェクト属性 27

オプション (Options) メニュー 14

か

拡張設定 25

設定 25

監視

アラート 15

キー

編集 46

キーの編集 46

キーボード

マッピング 46

クライアント 20

グリッド (grid)

定義 13~14

コンソールビューの設定 26

コントロールパネル (Control Panel) 35

さ

再スキャン 14

サイレントログオン 33

サーバー 20

システム

設定 20

システムの設定 20

詳細ビュー 29

ステータス領域 (status area) 15

セキュリティ 10、20

接続設定 24

接続ホストの切り替え表示 34

選択

複数 16

選択したメニュー 31

た

ダイアログボックス

アクセシビリティ 46

タスク

アクセス 31

実行 31

スロットル 16

属性 16

- メニューから 31
- タスクアシスタントによるタスクの実行 31
- タスクの実行 31
- タスクへのアクセス 31
- タスクログ 37
- ツリー (tree)
 - オブジェクト 13
- ツールバー 15
- ツールバー (toolbar) 25
- ツール (Tools) メニュー 14

な

- ナビゲーションビュー 29
- ニューモニック 46
- ネーティブログオン 33

は

- パースペクティブ 25
- ビュー
 - 出力 38
 - ビューの印刷 38
 - ビュー (View) メニュー 14
- 表示
 - オブジェクト 27
 - オブジェクト属性 27
- 表示プロパティの設定 25
- ファイル (File) メニュー 14、31
- 複数選択 16
- 複数ホストのサポート 10
- 分割バー (splitter) 14
- 別ウィンドウで表示 15
- ヘルプ 15
- ヘルプ (Help) メニュー 15
- ホスト
 - 定義 14
 - 複数ホストへのアクセス 10
- ホストの追加 24
- ポップアップメニュー 31

ま

- 前のまたは次のアラート 36、38
- マッピング
 - キーボード 46
- メインウィンドウ (main window)
 - ステータス領域 (status area) 15
- 説明 12
- メニュー
 - ウィンドウ 14～15

- オプション 14
- コンテキスト依存 31
- 選択 31
- タイプ 14
- タスクの実行 31
- ファイル (File) 31
- ヘルプ 15
- ポップアップ 31
- ユーザー設定 14

や

- 優先ホストから削除 (Remove From Favorites) 24
- 優先ホスト (Favorite Hosts) 24
- ユーザーアカウントの設定 27
- ユーザー設定
 - オプション (Options) メニュー 14
 - 接続 24
 - 設定 14
- ユーザープロファイル 39

ら

- リモート管理 10
- リモートコンピュータからの切断 34
- ログ
 - アラート (alert) 36
 - 設定 38
 - タスク 37
- ログオン時に再接続 (Reconnect at Logon) 24
- ログの設定 38
- ログポリシー 40